

第2節 高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向

1 高齢者の家族と世帯

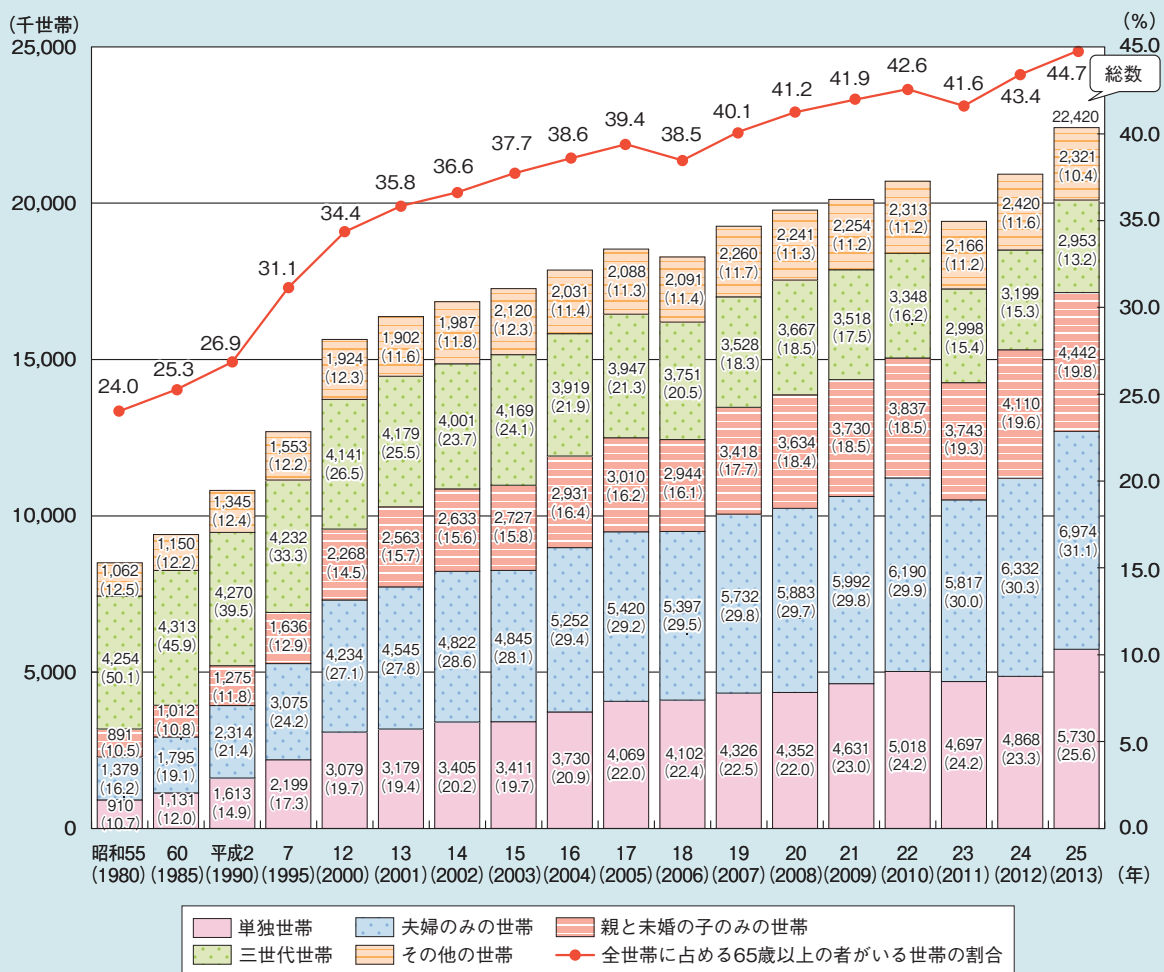
(1) 高齢者のいる世帯は全体の4割、そのうち「単独」・「夫婦のみ」世帯が過半数

65歳以上の高齢者のいる世帯についてみると、平成25（2013）年現在、世帯数は2,242万世帯と、全世帯（5,011万）の44.7%を占めている（図1-2-1-1）。

65歳以上の高齢者のいる世帯について世帯

構造別の構成割合でみると、三世代世帯は減少傾向である一方、親と未婚の子のみの世帯、夫婦のみの世帯、単独世帯は増加傾向にある。昭和55（1980）年では世帯構造の中で三世代世帯の割合が一番多く、全体の半分程度を占めていたが、平成25（2013）年では夫婦のみの世帯が一番多く約3割を占めており、単独世帯と合わせると半数を超える状況である。

図1-2-1-1 65歳以上の者のいる世帯数及び構成割合（世帯構造別）と全世帯に占める65歳以上の者がいる世帯の割合



資料：昭和60年以前は厚生省「厚生行政基礎調査」、昭和61年以降は厚生労働省「国民生活基礎調査」
 (注1) 平成7年の数値は兵庫県を除いたもの、平成23年の数値は岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。
 (注2) () 内の数字は、65歳以上の者のいる世帯総数に占める割合 (%)
 (注3) 四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

(2) 子どもとの同居は減少している

65歳以上の高齢者について子どもとの同居率をみると、昭和55（1980）年にほぼ7割であったものが、平成11（1999）年に50%を割り、25（2012）年には40.0%となっており、子どもとの同居の割合は大幅に減少している。一人暮らし又は夫婦のみの世帯については、ともに大幅に増加しており、昭和55（1980）年には合わせて3割弱であったものが、平成16（2004）年には過半数を超え、25（2013）年には56.2%まで増加している（図1-2-1-2）。

(3) 一人暮らし高齢者が増加傾向

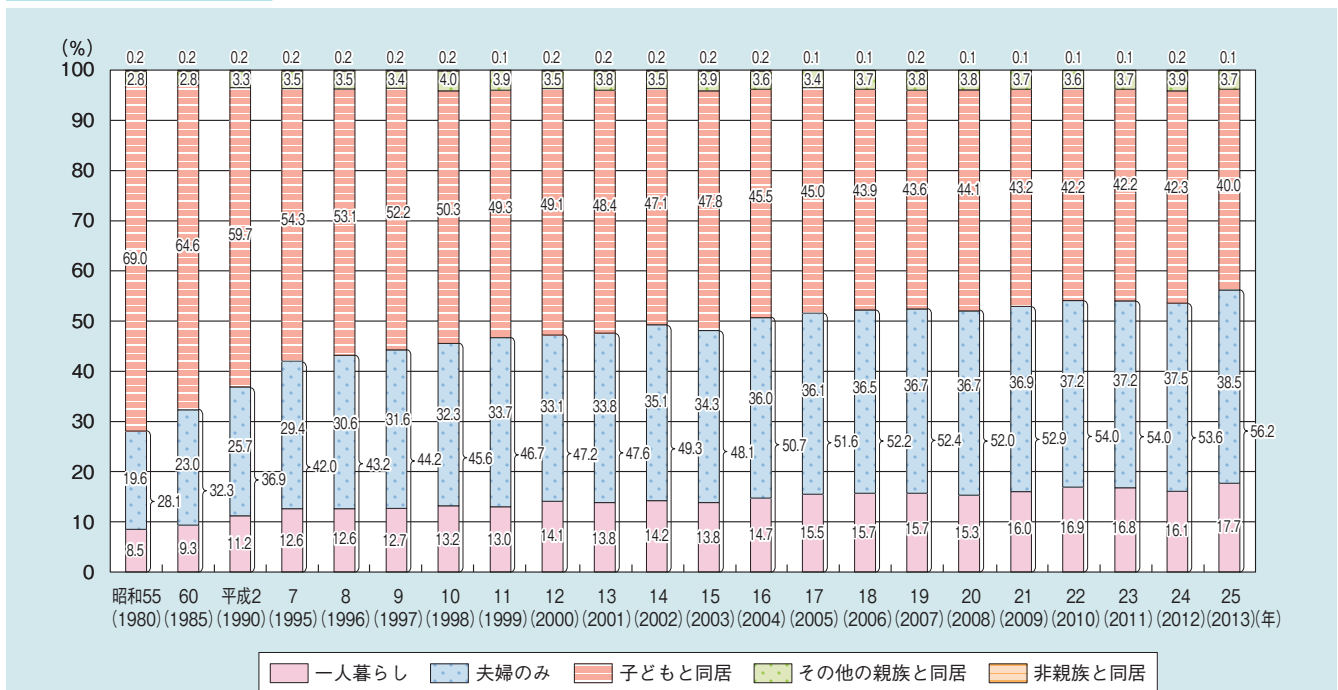
65歳以上の一人暮らし高齢者の増加は男女ともに顕著であり、昭和55（1980）年には男性約19万人、女性約69万人、高齢者人口に占

める割合は男性4.3%、女性11.2%であったが、平成22（2010）年には男性約139万人、女性約341万人、高齢者人口に占める割合は男性11.1%、女性20.3%となっている（図1-2-1-3）。

(4) 女性の有配偶率は5割弱だが上昇傾向

65歳以上の高齢者の配偶関係についてみると、平成22（2010）年における有配偶率は、男性80.6%に対し、女性は48.4%である。女性の高齢者の約2人に1人が配偶者ありとなっており、その割合は上昇傾向にある。また、未婚率は男性3.6%、女性3.9%、離別率は男性3.6%、女性4.6%となっており、いずれも上昇傾向となっている（図1-2-1-4）。

図1-2-1-2 家族形態別にみた高齢者の割合



資料：昭和60年以前は厚生省「厚生行政基礎調査」、昭和61年以降は厚生労働省「国民生活基礎調査」

(注1)「一人暮らし」とは、上記調査における「単独世帯」のことを指す。

(注2)平成7年の数値は兵庫県を除いたもの、平成23年の数値は岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。